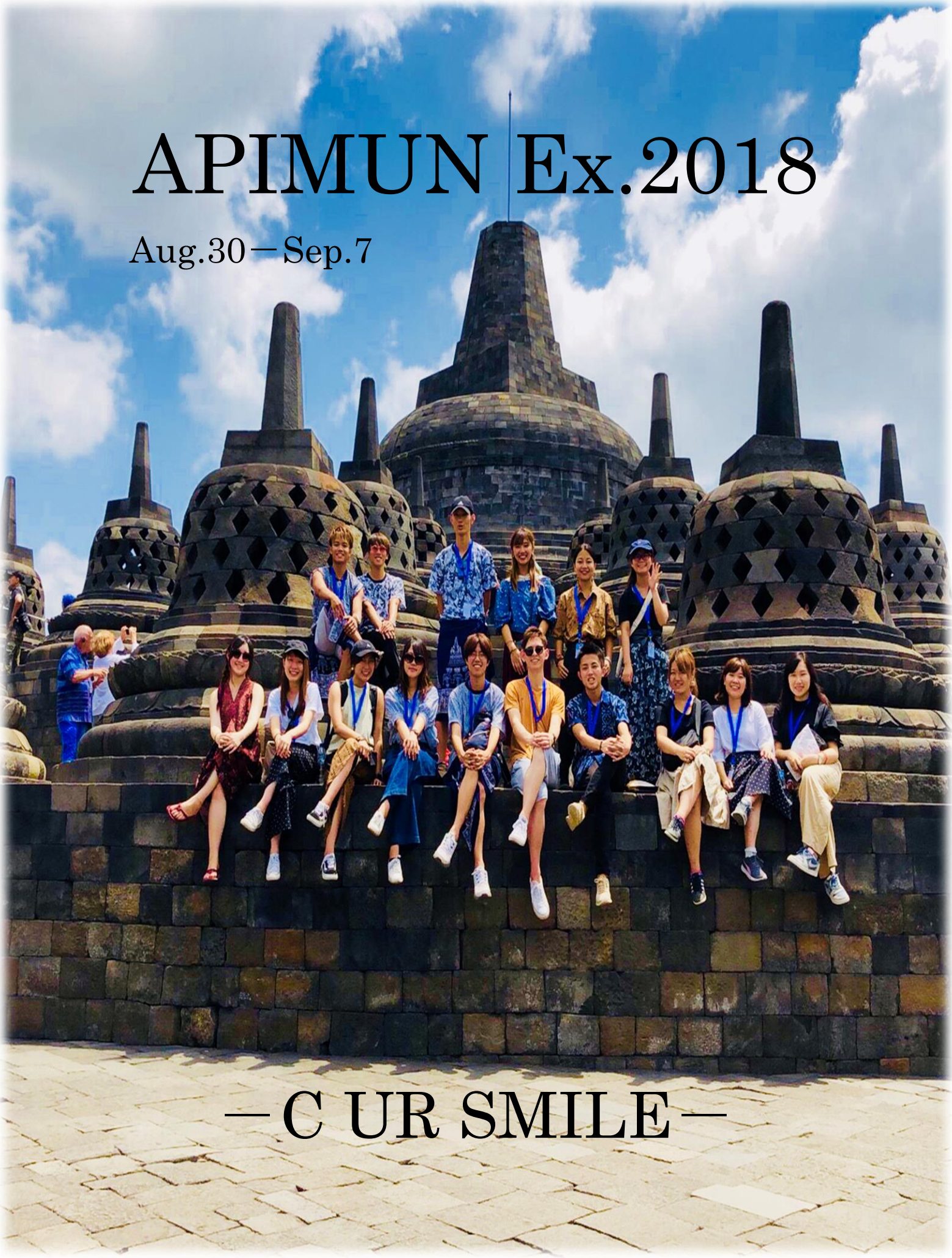
APIMUN Ex.2018

Aug.30－Sep.7



－C UR SMILE－

目次

・開催目的・協力団体

・メンバー紹介

・持ち物リスト

・開催目的、協力団体

・プログラム日程

・団長挨拶

・日別活動報告

・フリーテーマエッセイ

・写真集

・編集後記

開催目的

　インドネシアのことを知ったり、現地の APIMUN メンバーたちと密な国際交流をしたりする。

協力団体

　APIMUN（Asia Pacific Indonesian Multicultural Understanding Network）

メンバー紹介

団長	川本 航平	神戸支部	４回
副団長	京坂 光紀	東京支部	１回
合宿	原田 紗英	京都支部	３回
国渉	小嶌 楓子	名古屋支部	２回
報告書	工藤 智恵	岡山支部	２回
合宿、財務	西木 琴乃	九州支部	２回
広報	大下 美星	京都支部	２回
文化紹介	川嶋 ふみ枝	大阪支部	２回
勉強会	上畠 由暖	大阪支部	２回
広報	新田 航介	大阪支部	２回
文化紹介	佐藤 正徳	九州支部	１回
文化紹介	小篠　楓人	九州支部	１回
国渉	ツアダ エイジェイ	九州支部	１回
保険	松藤 十三恵	九州支部	１回
国渉	岡本 実紗	岡山支部	１回
報告書	根来 真奈	大阪支部	１回

持ち物リスト

□パスポート
□航空チケット
□海外保険（コピーページも）
□参加費
□ポケットマネー
□日本のお土産
□スマホ
□洗面用具（歯ブラシ、シャンプーなど）
□常備薬
□着替え
□帽子
□寝間着
□タオル
□日焼け止め
□汗対策（汗拭きシート、シーブリーズなど）
□虫よけ
□かゆみ止め
□ポケットティッシュ
□ウェットティッシュ
□ハンカチ
□充電器
□変圧器
□プラグ交換器
□ドライヤー
□筆記用具

プログラム日程

Day1

・Participants arrival
・Go to Bandung

Day 1

Day 2

Day2

・Go to Tangkuban Perahu
・Mission Culture at Tangkuban Perahu
・Learn How to play angklung

Day3

・Go to Cirebon by bus
・Learn how to make Batik
・Go to Jogjakarta by train

Day 3

Day4

・Watch the Bakpia factory
・Homestay

Day 4

Day5

・Go to Borobudur
・Lunch in Pringsewu
・Visit high school
・Activity at high school
・Go back to homestay

Day 5

Day6

- Lava Tour in Mount Merapi
- Lunch at Mr. Blangkon
- Go to Marioboro
- Free time in Malioboro
- Flight to Denpasar
- Arrive in Bali & take a rest

Day 6

Day 7

Day7

- Breakfast & preparation
- Learn to dance at University
- Lunch
- Shopping time in Krisna

Day8

- Dinner & come back to hotel
- Breakfast
- Go to Monkey Forest
- Go to Goa Gajah
- Lunch
- Ulwatu Kecak
- Farewell party at beach

Day 8

Day9

- Check out
- Come back to each countries

Day 9

団長挨拶

記念すべき第一回目を迎えました、APIMUN Ex.です。この派遣事業はインドネシアの学生団体である APIMUN(Asia Pacific Indonesian Multicultural Understanding Network)との間で行われます。4 都市を巡りながらジャワ島をバリ島の文化を知れる素晴らしい Ex.です。第一回目の団長挨拶を飾ることができ大変光栄に思います。このページをお借りして「APIMUN Ex.の意義」をお伝えできればと思いますので、一読していただければと存じます。

「APIMUN Ex.の意義」は双方向の国際交流と参加するインドネシア人の人数にあります。現行の Ex.のほとんどは I.S.A.側が現地を訪問するだけで、訪問先の学生は日本で交流していません。しかしながら APIMUN は毎年秋に日本で交流をしています。そのため、APIMUN Ex.を通して、学生団体間で密な交流が今後期待されます。また APIMUN Ex.では 100 人近くの学生と交流することができます。彼ら彼女らは日本語を勉強している学生ではないため、会話は基本的に英語です。語学力向上を求める会員にとって有意義な機会であることは間違いありません。そして勿論、このような APIMUN Ex.を創設できたのも多くの方の援助があったからだと思います。有難う御座いました。

さて、この後に続くページでは参加者のみんな思い思いの報告が記されています。是非、読んで APIMUN Ex.の雰囲気を感じてください！これにて団長挨拶とさせていただきます。有難う御座いました。

APIMUN Ex.01 団長
神戸支部 神戸大学 4 回 川本航平

第１日目　工藤智恵

　ついにスカルノハッタ空港に到着。経由地のクアラルンプール空港で冷房の寒さに先輩と一緒に耐えたつらい時間も、目的地に着いた嬉しさでどうでもよくなるほどだった。空港で APIMUN メンバーが待ってくれているというので、メンバーに LINE で着いたよ！と連絡。10 分ほどして、APIMUN メンバーの 1 人、アリッサに会った。Ex.期間中英語を使って交流しないといけないことが不安だった。というのも、以前ベトナム Ex.に参加した時、私の英語はほとんど聞き取ってもらえず、今回もそうなってしまうのだろうと思っていたからだ。しかし、アリッサは聞き取ってくれたし、私が聞き取れず、何度も One more time, please.といっても嫌な顔をせず、私が理解してくれるまで何度も言ってくれた。優しい彼女のおかげで不安はなくなり、英語でコミュニケーションがとれて緊張がほどけた。

　後から来た友達と合流した後、スーツケースをゴロゴロいわせながらバス乗り場に移動。バスを待つこと 30 分。ついに来た！デイシーに続いて乗り込んだ。しかし、現地の人がたくさん乗り込んだので友達は乗れず、先にデイシーと 2 人で行くことになった。バスの中では長時間フライトの疲れもあってか景色も見ず爆睡した。そして駅に到着。コンビニで緑茶を買う。そう、買ってしまったのだ。インドネシアの緑茶に一癖あるとも知らずに。このことに気づくのは電車に乗ってからのことである。10 分ほどして友達も駅に到着し、レストランで昼食。メニュー表を見るが全く読めず、APIMUN メンバーに教えてもらってナシゴレンを注文。イオ〇の CM でナシゴレンを紹介していたなーとぼんやり思いながらナシゴレンを一口食べる。食べた後にほんの少しだけ辛さがあったがほぼチャーハンと味が一緒でおいしかった。その後、電車に揺られること 3 時間。車内からインドネシアの生活感あふれる建物をたくさん見た。発展しているところとしていないところの差がかなり激しいな。そんなことを思いながら、買った緑茶を飲む。あ、甘いっ！驚きつつパッケージを見ると、そこには with honey と書かれていた。後から聞いた話だと、インドネシアのお茶や緑茶は甘いのが普通のようだ。苦い緑茶を想像して飲んだのもあってか、ものすごく甘く感じた。この文化の違いは現地に行ったからこそ分かる違いだと思う。

　そんなこんなで目的地のバンドゥンに到着。タクシーでホテルに向かう間、道は渋滞。無数のバイクがタクシーを取り囲むようにいる。ウインカーを出さずに車線変更する。日本では 100％見かけない光景である。これが異文化なんだね！と一人納得(笑)。夜はミージャカルタゴレンという焼きそばに似たものを食べ、ストロベリージュースを飲んだ。マンゴージュースやアーモンドジュースを頼んでいるメンバーもいて、一口飲ませてもらったのだが、どれも個性の強いジュースだった。初日から色々とあり、疲れていた私は早々と布団に入り、アラームをセットして眠った。

第 2 日目　工藤智恵

　アラーム音の大きさが思いのほか大きすぎて鳴った瞬間目が覚めた。朝ごはんはホテルで食べた。ビュッフェ形式でやはり定番のナシゴレンが置いてあったので、少し食べた。うん、相変わらずおいしい。さて、今日はまず最初にタンクパンペラフという観光地に行った。ここは大きな噴火跡地で、いまだに煙が少しだけもくもくとしていた。ここではグループに分かれてフォトジェニックコンテストをした。各グループが優勝できるよう、たくさんの写真を撮った。観光地なだけあって、押し売りの人がたくさんいて、中には記念撮影をするために手伝ってくれた押し売りのおじさんもいて、しまいにはポーズまで提案してくれた。私が一番気に入っている写真は、遠近法と煙を使って、まるで自分の手のひらから煙が出ているかのように見える写真だ。なお、フォトジェニックコンテストはなんと私達のグループが優勝し、景品のお菓子をもらった。
　その後フローティングマーケットで各自お昼ご飯を調達。フローティングマーケットとは名前の通り、湖の上に浮いているたくさんのマーケットを表している。日本でいうとお祭りの屋台が近い。お昼ご飯は、チーズホットグとスムージー。その他にも皆で分け合いっこした。とにかくおいしかったのが、バニラとイチゴとブラックベリーのスムージー！昨日フルーツジュースの個性が強かったので、フルーツを使ったこのスムージーも強いのかもしれない。と少し緊張しながら一口飲んでみるとおいしかった。スムージーの量が多かったので飲み終わるころには私のお腹はスムージーで満たされていたといっても過言ではない笑
　昼食後はアンクルンという、竹で作られた伝統楽器の演奏を聴いたり、挑戦したりした。アンクルンでジャズやクラッシックを演奏できるのが意外で驚いたし、面白かった。パフォーマンスの最後に観客も一緒にダンスをした。全く踊れない私でも雰囲気が良かったので楽しい時間になった。途中でアンクルンの指揮者が登場したのだが、指揮者がイケメンで、結構指揮者のほうを見てしまったのはここだけの秘密にしておく。演奏が終わった後、皆で記念撮影を撮り、その後女子は皆イケメン指揮者とのツーショットをゲットして嬉しそうだった。帰りのバスの中で突然カラオケ大会が始まって、とても盛り上がった。晩御飯は昨日と同じショッピングモールの中で、揚げ鳥をいただいた。飲み物はお茶で、一口飲むと口の中に甘さが広がり、なんだこれ！？となった。一日目に緑茶で体験したことを二日目でもすることになるとは思ってもみなかった。ご飯は盛り塩のような形で出された。ご飯を食べた後、少し自由時間があったので、スタバに行った。物価が低いので安く買えたし、日本にはないメニューを頼むことができたのが嬉しかった。そんなこんなで色々体験した 2 日目が終了した。

第 3 日目　松藤十三恵

　この日は、チラボンに移動して、みんなでバティックを体験しました。バティックとは、インドネシアの染め布地の特産品のことで、溶かしたろうを専用の筆のようなものに流し込み、それで模様を描いていきます。布にはあらかじめ細かい模様が下書きとして描かれており、それに沿って、ろうを流し込んでいきます。私たちの隣でプロの方がやっていたのですが、とても上手で簡単そうだったので、私たちにもできそうだと思っていたのですが、実際やってみるととても難しく、最初の方はろうが出過ぎて模様が太くなってしまい、筆に入れたろうがなくなると模様が細くなりすぎてしまって、均等な太さで描くのがとても難しかったです。みんなの書いたバティックを見てみると、みんなの似顔絵を描いている人や、下手くそな豚の絵などを自分で描いている人もいてとても面白かったです。

　バティック体験の後は、みんなでショッピングをしました。バティックの洋服をおそろいで買ったり、お土産を買ったりしました。また、ショッピングの後には、何人かの ISA メンバーと APIMUN メンバーでスイーツを食べました。そのときにお互いの言語を教え合ったり、好きな映画や音楽の話をしたりしました。慣れない英語を駆使しながら、私たちは最近の流行語を APIMUN メンバーに教えました。とても楽しくて一気に APIMUN メンバーとの距離が縮んだ時間でした。

第 4 日目　岡本 実紗

この日はまずジョグジャカルタのホテルを出発して、バッピアを作っている工場に行きました。バッピアというのは、あんこみたいなのが薄い皮に包まれている、インドネシアの伝統的なお菓子のことです。みんな試食させてもらいながら、じっと真剣に作られる過程を見ました。和菓子みたいでとても美味しかったです！賞味期限が短くてお土産に買って帰れなかったのが残念でした…。一番近いところでバッピアを作っていたお兄さんに、「かっこいい」とインドネシア語で誰かが言ったら、恥ずかしがって奥にこもって出てこなくなってしまったのが可愛かった笑

そこの施設で買い物やお昼ご飯を楽しんだあと、王宮の目の前にある神聖な公園に行きました。そこにある大きな木と木の間を、50m ほど離れた場所から目隠ししたまま通ることが出来たら願い事が叶うと言われているそうで、私たちも必死にチャレンジしました！無事ゴールできたけど効果があったのかは不明…笑そしてそのあと、APIMUN のメンバー約 20 人ほどと合流して、ミニ運動会を行いました。神聖な場所なのに騒いだりはしゃいでいいんかい！と思いながら、スプーンレースや三人四脚のようなものをしてしっかり楽しみました。運動会の間だけというわずかな時間しか一緒に過ごすことができなかった APIMUN メンバーも多かったのですが、とてもとても濃い、楽しい時間を過ごすことができて、初対面とは思えないほど盛り上がりました。この運動会が一番の思い出と言っていた人も多くいるほど充実した時間でした。そのあと、近くのお店に晩ご飯を食べに行ったのですが、誕生日が近かった三人を、サプライズケーキとともにお祝いしました。また、そこで数日間一緒に過ごした APIMUN メンバーとお別れしなければならず、非常に別れを惜しみながら見送りました。せっかく出会えた現地の方達とお別れするのはとても辛かったです。見送りしたあとは、二人ずつくらいに分かれてそれぞれのホームステイ先に向かいました。ほとんどの家で、お風呂のシャワーが水しか出なかったため、みんなしんどい思いをしましたが、とても貴重な経験になったと思います。私のホームステイ先では、持参した駄菓子を食べたり、日本の知育菓子を作ったりして一緒に楽しく過ごしました。ちなみに、梅干しのシートをホストファミリーに食べてもらったのですが大不評で残念でした笑

第 5 日目　根来真奈

ホームステイ先で朝を迎えました。飼っている鳥たちが夜とは違って元気に鳴いていて、ホームステイ先のお父さんが家の案内をしてくれました。仕事の関係から海外に行くことが多いらしく、たくさんの国々のお土産が置かれている大きなショーケースがあったり、日本から購入した鯉が何十匹もいたりと、家の豪華さにびっくりしました。

朝ごはんはホームステイ先のお母さんが作ってくれました。豆と野菜のスープは朝からとても温まることができて美味しかったです。

朝起きたときにイスラム教のお祈りの音声が聞こえてきたのでそのことについて聞いてみると、1 日に 5 回お祈りをすると言っていました。日本ではそこまて宗教を重要視していないというイメージが私には強く、自分の宗教のことについて詳しく答えられないので文化の違いを感じることができました。

この日の行き先はまず仏教に関する世界遺産のうち最大であるボロブドゥール遺跡を訪問しました。遺跡に入る前には肌をあまり見せてはいけないので布を巻いているメンバーもいて、神聖なところなのだなと感じました。ですが入ってみるとお土産の売り込みの方が至る所にいて、断るのが大変でした。

いよいよボロブドゥール遺跡と対面しました。想像以上に大きく迫力がありました。正方形で 9 段のピラミッド状になっていて、高さは 42 メートル前はあったのですが雷が落ちて低くなってしまったそうです。日本語が話せるガイドさんがついてくれたおかげで壁に掘られている釈迦の生涯の話や歴史について知ることができました。

遺跡に行った後は、高校を訪問しました。その高校には日本語を勉強する部活があり、そこ生徒たちが出迎えてくれました。自分が思っていた以上に日本語を使っている子たちがたくさんいて親しみを感じました。そこで私たちは日本文化の紹介として書道と折り紙を一緒に行ったのですが、折り紙を折ったことがある子がいたり、漫画の話ができたりと日本の文化が意外と知られているのだと分かりました。生徒たちはみんな素直ですごく可愛かったです。

第 6 日目　根来真奈

この日はホームステイ最終日でした。たったの 2 日間でしたがインドネシアの日常に深く関わることができ、ご飯もおいしく、たくさんの話ができたことが嬉しかったです。

ホームステイ先の家族と別れた後はまず、メラピ山に行きました。バスで火山の近くまで行きそのあとはジープでオフロードを駆け抜けるという体験をしました。想像以上の衝撃で途中からは座っているのもやっとなほどでした。みんな初めての体験でテンションが上がってすごく楽しそうでした。

山を登る途中で火山の噴火の影響で失われてしまった街の展示物があり、実際に降ってきた岩石や写真など想像するだけで恐ろしく自然の脅威を感じました。

午後からはマリオボロで自由時間でした。みんなそれぞれ買い物などを楽しみ、インドネシアの街の雰囲気を存分に感じることができました。なんといっても物価が安かったです。何を買うにしても値切りに値切りました。笑　スタバに入った時にドアマンがいたことに驚きました。

インドネシアにいるとついつい買いすぎてしまったので、あれこんな使ったっけ？と日本に帰ってきてから思いましたがそれもいい体験だったと思います。

そして、夜からバリ島へ出発しました。みんなとても楽しみにしていて飛行機が大幅に遅延したりしましたが、ゆっくり話す時間があってよかったと思います。団長の具合が悪そうだったのでみんなとても心配していました、上着を団長に掛けてあげたりと APIMUN メンバーの優しさを見ることができました。

いよいよ最終目的地のバリ島での生活がスタートしました！！！

第 7 日目　西木琴乃

　私は 7 日目についての活動報告をします。その日は朝からバリ島の中の Udayana 大学に訪問しました。そして、日本人メンバー1 人と、インドネシアの大学生 2 人の 3 人のグループとなり歓迎されました。始まるまでに時間があったので、私は隣に座っている学生とはなしていました。英語が得意ではなく、インドネシア語はなおさらわからない状況で不安だった私に、隣の学生は日本語で話しかけてくれました。その時とても驚いたのと感動したのを覚えています。日本語を専攻している学生で、とても日本語が上手でした。会話が弾んでいたところ大学の学生の司会のもと、交流会が始まりました。ステージで学生 4 人がバリの伝統舞踊を披露してくれました。とても煌びやかな衣装とカラフルな化粧をしていて、指先まで意識した細やかなダンスでした。その後、私たちも一緒に座っている 2 人に伝統舞踊を教えてもらいました。腰の動き、指先や目線の動きなど細かな動きもあり、かなり難しいダンスでした。一通り教えてもらった後ステージでみんなで踊りました。うまくできていたかわからないですが、インドネシアの学生と私たちも楽しく一体となって発表することができました。その後は私たちメンバーからの日本の文化交流として、大縄跳びをしました。初めに私たちで見本ということでやって見せて、インドネシアの学生と一緒に行いました。現地の同じ年代の学生と交流できて、お互いとても仲良くなることができました。

　その後は、バリのショッピング施設での自由時間でした。2 階まであって、各自おみやげを買ったり、お揃いの T シャツを選んだりしました。とても種類も品数も多く、選ぶのにかなり時間がかかるほどでした。

バリ島に到着しての 1 日目はとても充実したスタートでした。ジャワ島ではイスラム教が多いのですが、バリ島ではヒンドゥー教の方が多いのでまた違った雰囲気があり、国が同じでもこんな変化があるのだと感じました。

第 8 日目　川嶋ふみ枝

この日が、プログラム参加者全員で行動する最後の日でした。朝から、いつものようにバスに 2 時間くらい揺られ、モンキーフォレストというバリの人気観光スポットに行きました。それまでのジャワ島ではほとんど自分たち以外の観光客に出会わなかったが、このモンキーフォレストでは周りは体感で 7 割、観光客でした。モンキーフォレストは、名前の通り、猿がいる森でした。人間用の道路が舗装されていたり、いたるところにテンプルランの顔のような石像があるところ以外は、本当に森で、自分の上を猿が通っていったり、猿に荷物を攻撃されたりすることもざらにありました。猿のカップルが猿の赤ちゃんをあやしているのを見て、癒されたりもしました。

そのあとに、ゴアガジャ遺跡という洞窟や沐浴場がある遺跡に行きました。敷地内では、宗教的イベントの準備をしていました。また、舗装されたジャングルみたいなものがあり、滝があったり南国の植物があったり、ヒーリング効果がある場所でした。お昼ご飯は、人をダメにするソファーがたくさん置いてある庭が隣にあるカフェで食べました。ここでのご飯も、いつも通り辛かったです。Ex 期間の最初の方は辛くない料理の隣にししとうの種で作ったソースがおいてあるだけでしたが、バリに来てから料理そのものが辛くなった気がします。現地の辛いものが好きな人たちは、その辛い料理に更にししとうのソースをかけるらしいです。食べ終わった後は、人をダメにするソファーでゴロゴロしたりフォトジェニックな、花でできた額縁みたいなオブジェで写真を撮ったりしました。みんなソファーにダメにさせられて、2 時間くらいそのカフェに滞在しました。おかげで、次に行った男声合唱ケチャでは、メンバーの半分が立ち見になりました。でも、インド洋に沈む夕陽が見られたみたいで羨ましかったです。ケチャは上半身裸の男の人たちの合唱に合わせた劇でした。インドネシア語がわからなくても、なんとなく話はわかりました。合唱をしていた男の人たちの大半はタトゥーを入れていました。私が 1 番気になったのは、背中にあきこって入れている男の人でした。ケチャを見終わった後、海辺のシーフードレストランに向かい、フェアウェルパーティーをしました。砂浜に直接テーブルが置いてあり、海まで 20m もなく、音楽も楽しめる、素敵なレストランでした。しかも料理も辛くなかったです。隣のテーブルにいた団体客が、手持ちの打ち上げ花火みたいなのをしていて、日本でも売って欲しいなと思いました。食事の後、夜なのにも関わらず、海で遊んで、男子はだれも着替えを持っていないのに、全員海に投げ込まれていました。その後、Desy に呼ばれたので、みんなで円になって、APIMUN メンバーやぺんぺんさんからの締めの言葉を話してもらったり、APIMUN メンバーから参加者一人一人に most 〇〇one の称号をもらったりしました。ちなみに私は the most creative one でした✌

　みんなで円になって話を聞いているとき、私は、あぁ、8 日間共にいろんな経験をしていろんな話をしたみんなとももう一緒にこんな長期間過ごすことがないんだなぁ、短く感じていたけど思い返すと長かったなぁ、寂しいなぁ、、とひたすら思っていました。その後、ホテルに戻り、必死にパッキングしました。笑

第 9 日目　川本航平

第一回開催を迎えた APIMUN Ex.もついに最終日を迎えた。ホテルをチェックアウトし、最後の朝食を食べた。最後に参加者と写真を撮る人もいれば、いつもと変わらないように会話と楽しむ人もいる。別れを悲しんで涙する人もいた。私は団長として無事に APIMUN Ex.を終えられたことに安堵しつつも、インドネシアを離れねばならない事に悲しみを覚えていた～思い返せば 1 年以上前、この APIMUN Ex.を創設するために APIMUN 側と当時の全国代表者会議と話を進めていた私は、これほどまでに達成感で満たされるとは夢にも思っていなかった。ここまで至るに多くの人々の助けがあったことは言うまでもない。多くの先輩と同期、そして後輩に恵まれてきた。特にこの APIMUN Ex.の参加者の後輩たち、君たちは最後まで僕を慕ってくれて着いてきてくれた。本当に感謝している。みんなが楽しんでいる姿を見て私は嬉しかったし、最上回生にも関わらずフランクに近づいてきてくれた。一人でも欠けていれば、この APIMUN Ex.はなかったと考えている。ありがとう～そんなことに思いをはせながら私はみんなの帰国を見届けた。この APIMUN Ex.を通じて少しでも異文化理解への興味の国きっかけを与えられたのなら、それに勝る喜びはないし、I.S.A.のことを好きになってくれれば尚嬉しい。

フリーテーマエッセイ

「出逢い」

インドネシアに行って多く人たちに出逢いました。日本の APIMUN Ex. のメンバーに出逢えたことも私たちを快く迎えてくれたインドネシアの APIMUN のスタッフたちとの出逢いも私にとって大切な宝です。この一週間の旅で、沢山の種類の涙を目にしました。日本が恋しい涙、嬉しさ、不安、喜びなどの涙がありました。しかし、出逢いには別れがあって、それに悲しい涙も付いてきます。確かに、離れることは辛かったですが、この旅で学んだもの作った思い出などが勇気となって今なんでも頑張れる気がします。みんなに再会する時に少しだけでも大人になって、みんなと思い出話でもしたいと楽しみにしています。

ツアダエイジェイ

「絆が深まる APIMUN Ex.」

一回生ながらも副団長をやらせてもらった第一回 APIMUN Ex.ではとにかくトラブル続きの 9 日間でした。私は航空会社の一方的なフライト変更の影響で 2 日遅れでメンバーと合流することになり、参加してからも火事現場に遭遇してバスが進めず、歩いて駅まで向かったり、次の日にはメンバーの一人が食中毒でお腹を壊し、そして団長も熱を出しバスで寝込んでいたり、バリ島に移ってからも海で盗難被害にあった者(2 人)もいれば、最終的には今回の関西地方での災害による関西国際空港の閉鎖で多くのメンバーがフライト変更を余儀なくされるなど、話し出したらキリが無いほどたくさんありました。とにかくみんな無事に家についてよかった！おかげで今となっては全部笑い話になったね(笑)

種々多様なトラブルがあった中でも、メンバー全員で協力し助け合い、励ましあったことでそれらを乗り切り、解決していくことができました。本来は「インドネシアの文化を深く学び日本の伝統文化を伝える文化交流」が目的で行きましたが、私たち第一期メンバーは当初の予定以上の経験と課題解決スキルを身に付けることができました。今回のプログラムは、川本航平団長のリーダーとしての資質の大きさを痛感したと同時に、リーダーシップの難しさを実感し、自分の強みや弱みを再認識できた機会でもありました！

今回の APIMUN Ex.は私にとっては大成功でした！最高の仲間と 7 日間(みんなは 9 日間)を過ごせてよかった！このプログラムを立ち上げてくれた我らが団長、川本航平に最大の感謝の気持ちを送るとともに、APIMUN Ex.が来年、再来年と続くことを願っています！

京坂　光紀

「驚くほど仲良くなった9日間」

今年新しく開催されたAPIMUN Ex。4か所も回れて、たくさんの文化に触れることができることが魅力的で参加を決めた。参加者が確定して、メンバーを見るとほとんど知らないメンバーが多く、最初は仲良くできるか心配だった。その心配はEx.初日に現地の空港に着くまで続いた。なぜならEx.が始まって初めて会うメンバーが何人かいたからだ。そして、全員がそろったのはEx.開始から3日目のことだった。思えばその日から少しずつ仲良くなったのかもしれない。初日は知り合いとばかり話していたが、3 日目頃から全員揃ったのだからこれを機に話しかけてみようと思うようになった。また、APIMUN メンバー達はとても優しく、常に私たち日本人参加者に寄り添ってくれるような素敵な人たちで、APIMUN メンバー達とも仲良くなれたし、彼女たちを通して日本人参加者も仲良くなれたのではないだろうか。彼女達のおかげもあってか、6 日頃には年上・年下関係なくタメ語で話すほど仲良くなった。仲良くなると今までは当り障りのない話をしていたのがいつの間にか深い話までできるようになった。いきなりバス内で snow を使っての変顔大会もしたし、恋

バナもした。最終日のフェアウェルパーティー後、一人ずつ各分野で表彰されたのだが、発表されるたびに皆で盛り上がった。一日ごとに仲が良くなっていくのが伝わってきて、私にとっては 9 日間みんなと一緒に行動ができたのは素敵な思い出になっている。最後に一言だけ。APIMUN Ex 最高！！

工藤智恵

「彼らの温かさ。」

この APIMUN Ex. で得たことは、インドネシアの人たちの温かさだった。日本人はよく“日本人のおもてなし”といったことを売りにしたり、それを誇ったりするけれど、おもてなしの心を持っているのは、世界のだれもだと気づかされた。このプログラムでは、ほとんど日本人側は受け身だった。常にインドネシア人のメンバーがどこかへ連れて行ってくれたり、レストランでメニューをオーダーしてくれたり、体調を崩したメンバーの介抱をしてくれたり、危ない道では守ってくれたり、、、私が一番彼らの温かさを感じたのはインドネシアについたその日。私は飛行機が勝手にリスケジュールされるというアクシデントに見舞われ、プログラム 2 日目の夜にジャカルタへ到着した。ほかに 2 人のメンバーも同じ状況で一緒にジャカルタについたが、空港でお迎えを待ってる私たちのおなかはぺこぺこ。そのあと来てくれたアルメールとイバンさんは真っ先に私たちをレストランにつれていってくれて、とってもおいしいサテ（インドネシアの焼き鳥みたいなやつ）を食べさせてくれた。そのあとバスで移動して、ホテルについたのは夜中の 2 時。初日からこの時間に到着なの！？？と驚いたし、とにかく疲れていた私たちを数人のメンバーがロビーで出迎えてくれた。こんな夜中に起きてくれていたことがまずうれしかったし、ホテルの部屋に連れて行ってくれたあと、ホットミルクをもってきてくれた。それがあったかくてうれしくて、初日から彼らのやさしさに触れた。また私はプログラムのアフターで 3 日間ほどバリに残ったが、そこでもプログラムのリーダーは私がバリを出るその日まで一緒にいてくれた。助けてくれるメンバーにありがとうと伝えると、「これは普通だ」、「当たり前のことだよ」、「これは僕の責任だから」といつもそう言う。同世代なのにこれだけ自慢げでなく、当たり前のようにその言葉を口にするメンバーを前にして、すごく尊敬した一方で自分の未熟さも感じた。自分の考え方や他人を気遣うことを見直すべきだと思ったし、いつかこの人たちになにか恩返しができる日がくるといいなとも思った。
日本人だからどう、インドネシア人だからこう、とかではなくて、世界の人々の温かさを知れる機会をもらったということに感謝したい。インドネシア人のメンバーはもちろん、日本人のメンバーとも出会えて本当によかったです。

小嶌楓子

「初海外！！」

私はこの APIMUN Ex.で初めて海外に行くことになりました。知り合いがほぼおらず不安しかありませんでしたが、今では Ex が終わってからも定期的に集まれる仲になれて本当に嬉しいです。すごく楽しかったのですがその Ex,の期間中に私はいろいろ問題を起こしたので振り返ってみようと思います。

まず、日本を発つ時にまさかのチェックイン遅れ。予定していた飛行機に乗ることができませんでした。そのため急いで新しい便を購入し直しました。ここで約 6 万円のロス…。なんて幸先の悪いスタートなんでしょう。その時は他の APIMUN メンバーと一緒に居たので、1 人じゃなくてよかったと心の底から思いました。その後、タイを経由して無事にインドネシアに到着しました。なかなかインドネシアのメンバーと会えなくて空港内を行ったり来たりして申し訳なかったです。

そしてインドネシアで起こした 1 番の問題点はバリ島で朝までみんなで遊んでいたらスマホと財布が入ったカバンを盗まれてしまったことです。ほかに財布を盗まれたメンバーもいたので「あぁやってしまった。」と悟りました。そこからが大変でインドネシアの警察に行って被害届を出したり、台風の影響で関西空港が使えなくなったので新しい航空券を買い直したりと、ドタバタしていました。そんな中 APIMUN メンバーがスマホを貸してくれたり、色々な人に連絡を取ってくれたりとたくさん助けていただきました。本当に感謝しかないです。すごく心強かったです。迷惑をかけて本当に申し訳なかったです。

これで問題は終わったかと思いきや今度は帰国途中で経由したマニラで荷物を受け取ることができず、マニラに滞在していたメンバーに荷物を持って帰ってきてもらうという事件がありました。また、自分はその時スマホを持っていなかったので航空券を持っておらず、マニラの空港会社の方に手続きをしてもらい、ゲートまで案内してもらうということがありました。その時の自分はスマホなし、荷物なし、と途方に暮れていたのですが、航空会社の方が元気付けようとして下さってその方の娘さんの話などたくさんの話をしてくださいました。

自分の不注意で巻き込んでしまったみなさん本当にすみませんでした。心配おかけしてすみません。たくさんのメッセージありがとうございました！！！

APIMUN Ex.でたくさんやらかしましたが本当に素敵な出会いをすることができました。

参加して本当に良かったです。今度海外に行く時はもっと警戒心を持とうと思います…！！

本当にみなさん助けて下さってありがとうございました！！！！

根来真奈

「APIMUN Ex.を通して」

私が APIMUN Ex.に参加した 1 番の理由は、インドネシアの 4 都市（バンドゥン、チルボン、ジョグジャカルタ、バリ島）を 9 日間で回ることができるからです。実際に参加して、それぞれの都市の文化や食の違いを体験することができ、とても有意義な Ex.になりました。Ex.期間中は観光、ホームステイだけではなく、現地の高校や大学に訪問して文化交流をするので、他の Ex.より多くの人と交流できるというのも、この Ex.の魅力のひとつだと思います。インドネシアの人々は、とても温かく、親切で優しい人ばかりでした。
APIMUN Ex.の参加者は 1・2 回生が多く、I.S.A.のプログラムに参加するのが初めての参加者がほとんどでしたが、それぞれが APIMUN Ex.を楽しんでいる様子が垣間見ることができ、参加者同士も学年関係なく仲を深めることができたので本当によかったです。
APIMUN Ex.最高でした！

原田 紗英

「APIMUN Ex.を通じて」

先日約10日間のアピムン Ex.を体験してきた。ISA に入ったからには是非とも参加したかった Ex.プログラム。これまで自分自身が海外に行ったこともなく、なぜ初海外の行き先にインドネシアを選んだのかもわからぬまま導かれるように参加したアピムン Ex。今回から初めての行き先、プログラムであるというのに心惹かれたのだと今なら思う。10日間で4つの大きな都市を訪れることなどなかなかないプログラムだと感じた。アピムンを通してまず一番強く感じたのは、人の温かさである。英語がそんなに喋れない私にとって周りの人のサポートがとてもありがたかった。現地のアピムンメンバーはいつも私たちを気にかけてくれ気さくにいつも話しかけてくれた。二日間のホームステイでは、初めて会う見ず知らずの私たちにもたくさんの話をしてくれ、多くのコミュニケーションをとってくれた。たった二日間であったが自分の生涯の中でとても印象に残る出来事であった。一方インドネシアに行って驚いた出来事は水問題である。飲み水は必ず市販の飲料水、トイレは紙がなく桶を使い水圧で流す、ホテル以外のシャワーは水しか出ないなど様々なカルチャーショックを受けた。どれも日本にいたら体験できないことで、日本の生活とインドネシアでの暮らしを客観的に見て比較することができた。そして自分自身いろんなことに耐性がつき、一回り大きくなった気がする。このアピムン Ex.の大きな特徴の一つでもある文化体験は質の高さに驚いた。文化体験の数も多く、普通の旅行ではできないことだなと感じた。現地の学校訪問では、日本語を専攻に勉強している生徒達ばっかりだったので自信がなかったコミュニケーションもスムーズに取れてただただ楽しかった。初めてのプログラムであり4つの都市を回るということで連日寝不足であったが、一緒に過ごした日本のメンバーの一人一人の個性が強く毎日疲れを忘れるくらい楽しませてもらいサポートしてもらった。もちろん現地のアピムンメンバーの寛容な心とみんなと出会えた場を作り出してくれた団長には本当に感謝している。

大下美星

「初めての海外渡航」

この APIMUN Ex は僕にとって、初めての海外渡航でした。が！現地集合現地解散や長距離電車移動など不安なことが多くあり、正直びびってました。しかし、このプログラムを終えてその内容を客観的に振り返ることのできる今では、良い思い出しか出てきません。特に心に残っている 3 つのことについて書きたいと思います。

まず 1 つ目は、学校訪問です。自分より幼い子供を相手に折り紙や習字を教え、日本の文化を伝えました。日本語学科の生徒だったこともあり日本に対する関心は強く、とても食いついてくれたので楽しかったです。一緒に写真を撮ったり、Instagram を交換したり、英語を話すのは苦手ですが同じ目線に立って交流できたと感じました。

2 つ目はボロブドゥール遺跡です。高校では日本史選択でしたが、そんな僕でも知っているくらい有名な世界遺産に行けたことは本当にいい経験でした。写真を通して予想していたサイズよりはるかに大きく、彫刻などは繊細で手が込んでいて、多くの海外からの観光客、どれも初めての経験でとても興奮しました。ガイドさんが遺跡内を案内をしてくれました。一つ一つの彫刻にとてもおもしろいバックグラウンドがあり、中には現代に通じる考え方もありました。

3 つ目は食事についてです。このプログラムに参加するにあたって、何か一貫性を持たせようと思い、参加前に、食事について何か学べるものがあればいいな、と思っていました。いざプログラムが始まり、3 食をインドネシア料理で過ごしていくと、宗教上の理由から食べることのできないものがあったり、基本的に味付けが日本のものと全く異なっていたりなど、驚くことが多くありました。余談ですが、事前に道端の屋台に売っているものは食べたらだめだ！と注意をされていたのですが、だめと言われたらしたくなるのが人間の心理でフライドチキンのようなものを屋台で買って食べました。味が本当に美味しかったので大丈夫！と思いました。しかしその日の夜中、案の定食あたりになり、嘔吐下痢で次の日のプログラムを丸 1 日休みました。日本だったら裁判沙汰になるようなことだなあと思いつつ、自己責任だと自分に言い聞かせました。笑

とにかく全てがいい経験でしたが、特に印象に残っているのが上の 3 つです。APIMUN Ex.第一回でしたが、非常に満足のいく内容でした！！

佐藤正徳

「出会い」

今回の APIMUN Ex.で多くの新しい出会いを通し、人や文化と交流をすることができたと考える。私は今回のプログラムで初対面の人たちがほとんどで日本人同士の交流でさえ緊張していた。案の定、インドネシア初日で私は当たり障りのない女子というポジションを獲得した。せっかくインドネシア人との交流の機会を得たのに挨拶や軽い雑談程度で1日を終えてしまったことに軽く後悔した。しかしインドネシアで行われる多くのイベントにより少しずつ打ち解けることができ、今ではプログラムが終わっても国内や国外に連絡を取り合う友達ができた。APIMUN EX.ではインドネシアの文化を知るプログラムで構成されており、見るだけでなく実際に自分たちが体験して文化に触れることができる点がとても魅力的だった。中でもバリ島の大学に行き、バリの伝統舞踊を生徒と交流を深めながら覚え、踊る体験は、私の中で最も印象に残っているプログラムである。自分たちが体験をする前にお手本として見せてもらったダンスは、ストーリー仕立てになっており見ていて引き込まれるような面白いものだった。それを自分が今から踊るのだと思うととても興奮した。しかし実際に踊ってみると手先や目線の細やかな動きや手のしなやかさなど、難しいことが多く覚えるのにとても時間を要した。私の覚える速度が遅いせいでインドネシアの生徒と必要以上に交流できたことは、ある意味良かったと思っている。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、1 日も満たない時間を過ごした彼女たちとのお別れは非常に寂しく感じた。その分、人とも文化とも交流を深められたのだと考える。

また、私たち日本の APIMUN Ex.のメンバーとずっと行動をともにし、インドネシアのメンバーのことを私は一生忘れないだろう。初めのうちは緊張して少ししか話すことができず、打ち解けてからも私の英語力の低さ故、私は彼女たちと多くを語ることができなかった。インドネシアの人たちはとても勉強熱心で、英語だけでなく日本語も勉強しているのに対し、私は英語が少ししか話せないことにとても不甲斐ない気持ちになった。しかしそんな私にも優しく話しかけてくれ、仲良くしてくれた APIMUN Ex.メンバーが私は大好きだ。私が英語力を補うためのボディーランゲージを見て理解してくれる APIMUN Ex.メンバーが大好きだ。変な顔をしたら変な顔で返してくれる姿はとても可愛く、今でもその頃のことをよく思い出す。

私が ISA で初めて参加したプログラムはこの APIMUN Ex.であり、最初こそ緊張はしていたものの今では参加したことに非常に喜びを感じている。多くの出会いがあり、その分たくさん学ぶことがあり、私にとって貴重な体験となった。

上畠　由暖

「インドネシアと日本」

このプログラムに応募したきっかけは、自分のまったく知らない世界を知り、見聞を広げるためでした。いざ出発してみると、見聞を広げるどころか自分の世界観まで変わったように思えます。インドネシアではトラブルだらけで、トランジットで十時間以上、マニラで過ごし、やっと着いたと思えば wifi を見つけられず、迎えの人との連絡手段を失い迷子になったこと、屋台の食べ物を食べた友達が食あたりを起こしたこと、バリ島の治安の悪い面を目撃したこと、今となっては笑い話になりますが当時は顔面蒼白になるような出来事がほぼ毎日起こっていたような気がします。しかし、こんなトラブルを乗り越え無事帰国できた時、自分は確実にプログラム参加前よりも成長したと胸を張って言えるほどの実感がわきました。参加しようか迷っていたこのプログラムに参加して本当に良かったと感じます。

まず、到着して思ったことは明らかに車の数が日本とは比べ物にならないほど多いということでした。空港を出てすぐの道路には今にも事故が起きてもおかしくないほどのバイクや車の量に驚愕したのを今でも思い出せます。また、以前の勉強会で聞いていた通り、ムスリムの方が多かったことも鮮明に覚えています。自分のインドネシアのイメージは仏教徒が多いイメージでしたので、実際生でそのことを実感すると意外性を感じました。食べ物はまったく違うものでしたが、どうやら私はインドネシア料理が好みらしく、インドネシアに行ってから日本食が恋しいと感じたことは一度もありませんでした。辛い辛いと怖がっていた割には辛さを調節できるように、あらかじめスパイスは別の皿に入れられており、変なことをしない限りはおいしくいただくことができました。特に私は最終日に食べたナシゴレンの味が忘れられません。また、インドネシアでは路上で自分の作った商品を売っている人が多く、自分の目にはそれが異様に見えました。日本ではお祭りの時くらいにしか、屋台を見る機会はなく、あれ程まで客引きされることはまずめったにありません。しかし、インドネシアでは私が訪れたほとんどの場所で客引きに出会い、中には日本語で商品紹介をする人まで見かけました。彼らの一日一日の売り上げが生活を支えているのだと考えると納得できます。インドネシア人は出会う人みんな気さくで人懐っこく、人見知りの僕ですら通行人と一緒に写真を撮れたほどです。私はこの人懐っこさは日本人にはなかなか見られない、いい部分だと感じます。

私はこのプログラムを通して、数えきれないほどのことを学びそして成長しました。中でも私は思いやりの心の大切さを強く実感しました。最終日私はバリ島のビーチで財布の置き引きに会いました。すべては管理不足の自分の責任なのですが、APIMUN メンバーをはじめ一緒にいるみんなが自分の心配をしてくれました。私は本当にこのことに感銘を受け人を思いやる大切さを知りました。これからの人生困っている人がいると自分の思いやりを見せられるような人物になりたいです。

小篠楓人

「国と言葉の壁」

国際学生協会 I.S.A.に入って約半年、初めてのプログラム参加は初開催の APIMUN Ex.でした。出発日まで大学での日々に追われ、「明日はどんな人どんな体験ができるかな」と考える暇もなくバタバタしながら同じ I.S.A.メンバーの二人とインドネシアへ向かいました。

着いたらまずとてつもなくおなかが空いていたのを覚えています。ちょうど昼前についたのですが空港内でも何も買っていなかったので、とりあえず水をおなかに入れ誤魔化していました。空港からバスで鉄道の駅まで向かうのですが、空港のバスターミナルではこれでもかというくらいのバスの量、しかもそれぞれ一台一台行先が違うんです。まだかまだかと約30分ぐらいだったと思います、現地のプログラム参加者と一緒に乗り駅へと向かいました。

駅に着き早速レストランに向かい空港で合流したメンバーと食事をしていると、九州から来た地域のメンバーと合流しました。自分がもともと人見知りなところもあるからでしょうか、どうにも九州から来たメンバーは心から打ち解けられそうな気がしませんでした。

そのあとは鉄道にのって最初のホテルへ向かい休息をとりました。ただ同じ部屋のメンバーが九州メンバーの一人でそのなかでもとりわけ目立っていた人だったので少々腰が引けていました。

次の日からはインドネシアの観光地をたくさん回り現地の踊りや染め物、とても文化に溢れまたたくさん触れさせてもらうことができた Ex.でした。

また現地のプログラム参加者やインドネシアの方々、とてもお世話になりました。国境を越えて、言葉の壁を越え心から信頼できる方々でした。今でもお互いに連絡を取りあの日の楽しかった日々を一緒に振り返っています。

心から打ち解けられないな、と感じた九州のメンバーも3日、4日の一緒に過ごし話していくにつれお互いのことを理解してとても仲良くなっています。

つまり私にとってこの Ex.期間中は人と人がつながることは容易ではがないですが、一度お互いの腹の内を見せれば、言葉が違えど腹の色が違えど信頼関係を築けることを見つけられた、とても有意義なプログラム参加だったと感じています。

新田航介

編集後記

APIMUN Ex.が終了して、日本の生活に戻る。そうするとなぜだか参加したのが遠い昔、いや幻だったかも…という感覚になった。だが、編集していくうちにたくさんの思い出があふれてきて、参加したのがつい最近だったような感覚になっていった。そしてこう思う。Ex.って最高なのではないかと。素敵な思い出と一緒にいて楽しい仲間がEx.を通してできる。国際交流の素晴らしさをEx.は教えてくれる。だから皆Ex.に参加せずにはいられないのではないだろうか。今も編集中に次はどのEx.に参加しようかと考えている自分がいる。最後にこの報告書を読んでくださる皆さんにAPIMUN Ex.の魅力が伝わるものになっていたら嬉しい。

APIMUN Ex.01 報告書係 工藤智恵

APIMUN Ex.の報告書を作成することは思い出を振り返るとてもいい機会になりました。あっという間の1週間で、本当に素敵な出会いをしたなと思いました。日本はもちろんインドネシアの APIMUN メンバーと短期間でこんなにも仲が深まるとは最初は思っていなかったのですが、Ex.が終わってからも定期的に集まれる仲になれて本当に嬉しく思います。この報告書を作成するには思い出が多すぎて何を書こうかと時間がかかってしまいました。特に写真集を作成する際は思い出がより濃く思い返されて、どの写真を選ぶかすごく迷いました。みんなの表情がとても素敵で楽しかった、戻りたい、みんなに会いたいなとAPIMUNロスに陥りました。

APIMUN Ex.の第1回目に参加できて本当に嬉しいかったです。大成功だったと思います。

この報告書を見てAPIMUNに参加したいなと思ってくださる人がいたら嬉しいです。

素敵な出会いに感謝します。みんな、本当にありがとう！！！

APIMUN Ex.01 報告書係 根来真奈

Photo Album

BATUH

Ayung Bali